

□ 平成26年度グリーンスクール表彰校の取組（11校）

（1）尼崎市立清和（せいわ）小学校

「みんなのふるさと清和小学校 一学校まるごとビオトープ計画」

校内に存在する豊かな自然の価値を見直し、その維持管理を児童たちが行う「学校まるごとビオトープ計画」を展開し、各学年において環境学習に取り組んでいる。また、地域の環境を保全するため、帰化植物の除去の作業にも取り組んでいる。

こうした活動を通して、身近な自然への視野を広げ、環境についての問題意識を持つ等児童の感性を磨いている。さらに、校内環境の素晴らしさや維持管理活動の様子を地域に発信し、地域の方々とともに自然の豊かさや美しさを大切にすることを育んでいる。



（2）西宮市立神原（かんばら）小学校

「神原土（がんばど）プロジェクト～腐葉土を作って活用しよう！」

運動場を取り囲むように植えられているカシやシイの木の落ち葉に、米ぬかや発酵促進剤を混ぜ、腐葉土を作り、神原米作りや野菜作りに取り組んでいる。また、お世話になった地域の方を招待して「神原収穫祭」を開き、交流を図っている。

こうした活動を通して、環境学習に興味を持ち、自分たちの生活を見つめたりするようになってきている。さらに、地域の方々に認めてもらったり、声をかけてもらったりすることで、児童の自己有用感や自尊感情が高まっている。



（3）加西市立西在田（にしありた）小学校

「かがやけ若井川 ～川でつなごう ひと ところ～」

校区の豊かな自然環境に目を向け、校区を愛する気持ちを高めたいという願いから、若井川をテーマに活動を進めている。若井川に何種類の生物が生息しているかの調査や、水質調査、生き物にとって住みやすい環境の川にするためのすみかづくりを人と自然の博物館の学芸員や地域の方の協力を得て活動している。

こうした活動を通して、地域の自然環境への関心が高まり、自分たちの地域の自然を守っていききたいという思いをもつようになってきている。



（4）姫路市立大津茂（おおつも）小学校

「体も心も健やかな子の育成 ～花いっぱい、緑いっぱいの学校に～」

地域の方の協力により米作り体験をしたり、季節に合わせた野菜を育て、保護者と一緒に

調理して食べたりする食育活動とリンクさせた環境教育に取り組んでいる。また、「花いっぱい
の学校に」を合言葉に、児童・教職員・PTAが協力し、1年間を通して花の絶えない美しい学校づくり「花育」に取り組んでいる。

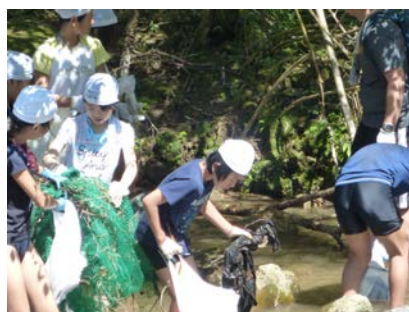
こうした活動を通して、児童たちは、給食の残菜から堆肥を作る「ダンボールコンポスト」や、花壇の水やりに「雨水タンク」を利用する等環境に目を向け、命の大切さや感謝の気持ちを持ち、自分たちの生活を豊かにしようとする態度を育んでいる。



(5) 佐用町立利神（りかん）小学校

「見つめよう、ふるさと利神 ～美しい佐用川を守ろう～」

グリーンスクール奨励賞をきっかけに、地元で生息する特別天然記念物であるオオサンショウウオと環境問題を結びつけ、系統的にカリキュラムを作成し取り組んでいる。「美しい佐用川を守ろう」という共通のテーマで、川のごみを拾う活動や、地域の方からお話を聞いて自分たちにできることはないか、川の環境をどう守ればよいか等の学習をしている。



こうした活動を通して、利神の豊かな自然を守ろうとする態度や、郷土の自然に誇りを持ち、郷土を愛する心を育んでいる。

(6) 豊岡市立福住（ふくすみ）小学校

「ふるさと大好き、自然大好き、福住っ子」

学校の畑や花壇で花や野菜の栽培、隣接した里山での林業体験や椎茸作り、地域の方の指導を受けながらの稲作り、地域貢献としてのクリーン作戦等に取り組んでいる。また、多様な生物が住む豊かな自然とシカやイノシシによる田畑への獣害という地域課題を環境学習に取り入れている。森や木、畑や水田を大切にすること、様々な生きものとの共生、昔の人の知恵やふるさとの素晴らしさ等、多くのことを学んでいる。



こうした活動を通して、環境保全の意識を高め、郷土に誇りを持ち、郷土を愛する心、奉仕の心を育てている。

(7) 洲本市立中川原（なかがわら）小学校

「知って守ろう中川原の自然と文化」

従来から実施していた米作り体験や大豆を使っての味噌作りの活動を通して、郷土の伝統文化や自然の素晴らしさを理解させる教育活動を推進してきた。今年度は、故郷を愛する児童の育成に視点をおき、由良の成ヶ島と



校区の厚浜の海岸に生息する生き物調査、中川原農地水環境保全隊の方の所有する田んぼの田植えや鎌での稲刈り、淡路の伝統芸能である淡路人形浄瑠璃・淡路だんじり唄体験などに取り組んでいる。

こうした活動を通して、身近な故郷の環境を守ろうとする態度や、収穫の喜びと自然に対する畏敬の念を育てている。

(8) 淡路市立佐野（さの）小学校

「佐野の自然を知り、自然にふれる喜びを感じる活動」

地域の特産物の花の栽培について学び、地域の人々と協力してキクとキンセンカの苗植えと収穫に取り組んだり、外部講師を招聘して、学校の近くにある里山の植生や、佐野川の生態系についての学習に取り組んだりしている。また、環境保全として、全島一斉清掃の時期に合わせて海岸清掃作業を行い、ふるさとの海を大切に作る取組も続けている。

こうした取り組みを通して、自分たちで地域の自然について知り、自然と交流し、地域のよさを未来へ伝えていこうとする心情を育てている。



(9) 南あわじ市立三原（みはら）中学校

「よみがえれ！ “ホタルの里”」

理科部員が中心となって“ホタルの里”の復活をめざし、43年前から蛍の人工飼育・放流活動を継承している。産卵箱等の準備から幼虫放流と観察を続けながら蛍の飼育を行っている。また、地域住民を光と幻想の世界に誘う「観蛍会」を開催することで、環境保全を啓発し、地域コミュニティづくりにも寄与している。

このような活動を通して、生命を尊ぶ心と郷土愛を育てるとともに、自然環境を守る気持ちを育てている。



(10) 兵庫県立大学附属（だいがくふぞく）高等学校

「スクールジーンファーム 地域の生物多様性の保全」

自然科学部生物班を中心として、地域の生物多様性の保全活動を目的に地域の希少植物であるヒシモドキやムラサキなどのフィールドワーク調査、栽培技術の開発を行っている。また、青少年のための科学の祭典等で絶滅危惧種や生物の多様性について、小学生にもわかりやすく工夫した展示を行うとともに、地域の自然について考える機会をもっている。

こうした取組を通して、ため池や里山など身近な環境の中であっても多くの生物が危機的な状況に置かれていることに気づき、使命感を持って主体的に活動する態度を育てている。



(11) 兵庫県立洲本実業（すもとじつぎょう）高等学校

「持続可能な未来社会へーあわじ環境未来島構想ー」

人口減少等の課題に直面する淡路島において持続可能な地域づくりを目指す「あわじ環境未来島構想」の推進に寄与する取組を行っている。地域に「街路灯」が少ないという地元の要望を受け、地域との共同研究会を立ち上げ、生徒の発案による微風でも起動できる風車（クロスフロー風車）を開発し、「街路灯」を設置している。また、別の地域では、生徒は農業用水が豊富であることに着目し、水車発電による「街路灯」を設置し、防犯灯や非常灯としても利用が期待されている。



こうした地域社会に貢献する取組を通して、環境保全や省エネルギー意識の向上を図っている。

□ 平成26年度グリーンスクール奨励賞表彰校の取組（4校）

※優秀な取組を進めており、今後の取組が期待できる学校をグリーンスクール奨励賞として表彰しています。

(1) 神戸市立花山（はなやま）小学校

「花山美緑花計画」

日常の清掃活動をはじめ、全校生による一人一鉢栽培、委員会活動による堆肥作り、さらに、KEMS（神戸環境マネジメントシステム）の推進として、節電、節水、紙のリサイクル、給食の残食0など多様な実践活動に取り組んでいる。



こうした活動を続ける中で、自分たちの身近な環境問題への取組が、温暖化の防止など地球規模の環境問題の解決につながっていることを学習し、環境にやさしい生活を送ろうとする意識を育んでいる。

(2) 尼崎市立武庫（むこ）小学校

「むこっ子ロードにホタルを！都市農業水路でホタルの再生を願って」

親子でゲンジボタルが飛ぶ様子を観察し、ゲンジボタルの学習を通して「西武庫公園ホタルの会」の活動に着目させ、ホタルの餌となるカワニナの飼育活動を行っている。また、学校近くの農業用水路や校区に隣接する武庫川、その上流の生き物調査、育てた幼虫の放流活動等も実施している。



こうした活動を通じて、児童は、人間の営みと自然との関係を具体的に学び、自ら自然環境を守ろうとする心を育んでいる。

(3) 川西市立加茂（かも）小学校

「地域の農家と協力し、川西特産の早生桃の観察をする。」

地域の特産である桃と校内で栽培している桃を比べ、おいしさの秘密や虫食いの防止など課題意識を持って、地域の桃畑で成長を観察したり、桃の即売会場で聞き取り調査をしたりして、地域の農業に関する理解を深めている。

こうした活動をする中で、農家の方々の工夫や思いが「おいしい桃」の生産につながるということを学ぶとともに、豊かな自然に恵まれたふるさとを愛し、この環境を大切にしていこうとする態度を育てている。



(4) 姫路市立坊勢（ぼうぜ）中学校

「私達の誇りである坊勢島の豊かな自然や暮らしを守っていこう！」

坊勢漁業協同組合職員による講演や、地元の漁業の発展に尽くす人々との交流を通して、坊勢島の自然に目を向け、普段何気なく過ごしている島の素晴らしさを改めて認識する学習をしている。こうした学習をする中で、生徒たちは、「愛着のある自然豊かなふるさと坊勢を次世代に残そう」と、海水浴場や海岸道路の清掃活動に取り組んでいる。また、地域の方が中心となって行う島内清掃に積極的に参加し、地域住民一体となって取り組んでいる。

これらの活動を通じて、坊勢島の美しい景観を保とうとする心や郷土を愛する心を育てている。

